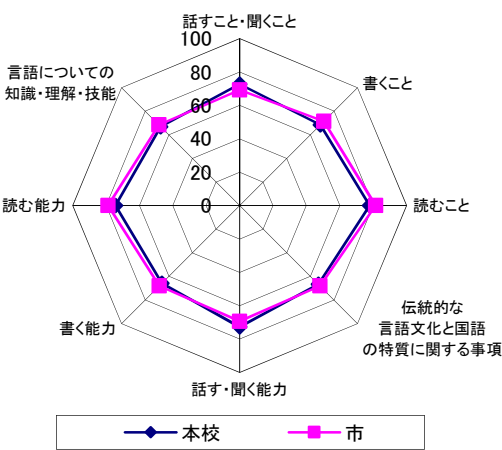


宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	72.7	69.3	73.4
	書くこと	68.4	71.3	74.6
	読むこと	77.9	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.7	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	72.7	69.3	73.4
	書く能力	65.7	68.1	71.7
	読む能力	74.4	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	66.9	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

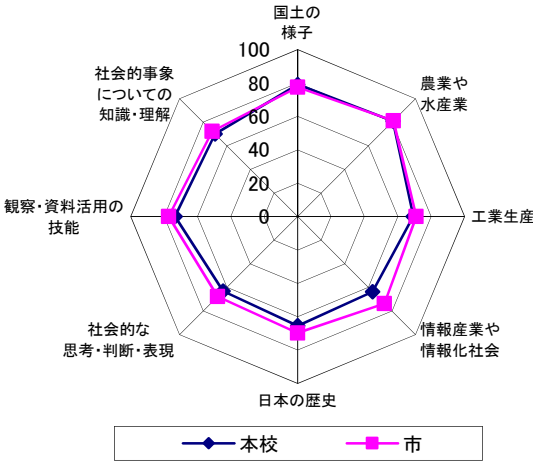
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると3.4ポイント上回っている。 ○日頃より話し合い活動が効果的に行われてきた成果であると考えられる。	○今後も国語の授業に限らず、日頃から話し合う活動を授業の中に取り入れていく。また、話し合いの観点に基づきながら活動を進めていけるよう、司会者の役割や話し方について指導していく。
書くこと	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、2.9ポイント下回っている。 ○指定された長さで文章を書いたり、理由や事例を挙げて文章を書いたりすることは定着してきている。 ●グラフの内容を読み取って、文章に書き表す問題では、市の平均正答率と比べて10ポイント以上下回っており、資料から読み取ったことを適切に書き表すことに課題が見られる。	・授業の中で、資料やグラフから読み取った内容を文章に書き表したりまとめたたりする機会を増やしていく。国語で学んだことを他教科でも活かしていくことで、書く力の向上を図っていく。
読むこと	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、3.6ポイント下回っている。 ●特に登場人物の心情を読み取る問題が、市の正答率と比べて10ポイント以上下回っており、課題が見られる。	・場面の描写や登場人物の心情の変化に着目させながら、くり返し文章を読み取らせていく機会を設ける。また、細やかな情景描写などにも目を向けさせ、全体を見通しながら登場人物の言動や心情の変化を読み取ることができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、1.7ポイント下回っている。 ●特に5学年の配当漢字を書く問題では、本校の正答率が市の正答率と比べて10ポイント以上下回っている問題もあり、漢字の習得に課題が見られる。	・授業や家庭学習等で、現学年の漢字だけでなく、前学年の配当漢字も計画的に復習させ、漢字を読んだり書いたりする力の定着を図る。また、習った漢字を使った熟語を集めるなど語彙を増やす取り組みを行っていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	79.1	77.5	74.0
	農業や水産業	81.0	81.1	73.7
	工業生産	69.3	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	63.6	73.7	63.2
	日本の歴史	65.4	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.1	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	73.5	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	70.0	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

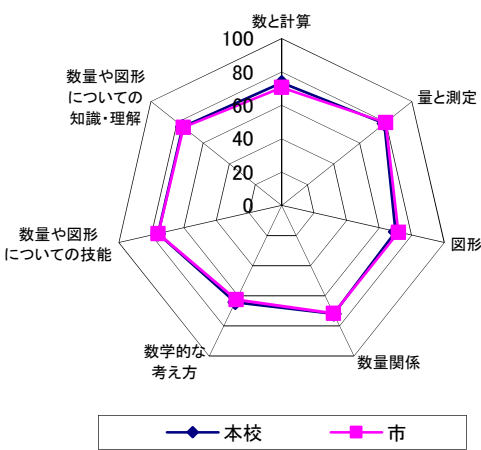
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.6ポイント上回っている。特に「森林を守るための間伐について理解しているか」を問う問題では、本校の正答率は、95.5%で市の正答率82.9%に比べて12.6ポイント高い。	・主な国の名称と位置や国旗に関するプリント学習などを取り入れたり、地図帳や資料集を活用したりすることで知識の定着を図る。
農業や水産業	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると0.1ポイント下回っている。特に「日本の食料生産がかかえる課題について、資料をもとに考えることができるか」を問う問題では、本校の正答率は、54.5%で市の正答率58.5%に比べて4ポイント低い。	・教科書や資料集に載っているグラフや資料から読み取れることについて考えさせる機会を増やす。
工業生産	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.8ポイント下回っている。特に「化学工業の製品について理解しているか」を問う問題では、本校の正答率は、63.6%で市の正答率67.9%に比べて4.3ポイント低い。	・教科書に記載されているもの以外についても、児童の興味関心の高いものがあれば、発展的な学習として積極的に取り入れ、幅広い知識を得ることができる機会を設ける。
情報産業や情報化社会	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると10.1ポイント下回っている。特に「医療での情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考えることができるか」を問う問題では、本校の正答率は、61.4%で、市の正答率76.1%に比べて14.7ポイント低い。	・身近にあるスマートフォンを利用したインターネットサービスなどの話題を取り上げながら、ネットワークの利便性についての理解を深めることができるようにするとともに、資料を読み取り考える学習を意図的に取り上げるようにする。
日本の歴史	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると4.3ポイント下回っている。特に「縄文時代～平安時代」に関する問題の正答率が市の正答率より低い。	・過去の学習を定期的に振り返り、時代の流れや特色を確認できる機会を授業の導入等で取り入れる。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.6	70.8	65.9
	量と測定	78.8	79.9	77.0
	図形	70.1	71.8	74.6
	数量関係	72.0	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	64.2	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	75.9	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	75.8	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

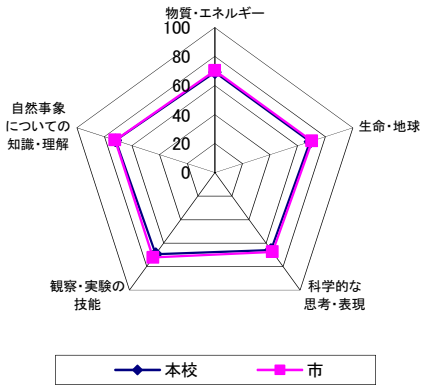
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると2.8ポイント上回っている。 ○特に小数の計算と分数の計算の正答率が、非常に高い。 ●文章を読み、問題の場面を理解して式の表しているものを選ぶ問題は、市の平均正答率より、7.7ポイント低く、無回答の児童がいる。	・文章問題の正答率が低いことから、ドリルやプリント等で文章問題に繰り返し取り組ませる。 ・文章題の内容を説明し、問の意図を理解させる指導を習熟度別学習などを活用して取り組む。
量と測定	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.1ポイント下回っており、やや低い。 ○面積の求め方の問題は、市の平均正答率より5.1ポイント高い。 ●直方体を組み合わせた体積を求める問題は、市の平均正答率より6.5ポイント低い。	・面積や体積の求め方の公式は理解できていると思われる。公式を活用して様々な問題を解き、その解き方を言葉で説明するなど問題解決の過程を確認させるような学習を取り入れていく。
図形	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、1.7下回っている。 ○三角柱の展開図を組み立てた時に重なる頂点を見付ける問題は、市の平均正答率より2.8ポイント上回っている。 ●五角形の内角の和を求める問題は、市の平均正答率より、9.2ポイント下回っている。	・図形の持つ特徴を再確認し、定着を図れるよう、具体物を操作したり、ICTを活用したりしながら学習し、視覚的に理解できるように進めていく。
数量関係	領域全体の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、ほぼ同じである。 ○文字を使った式が表す場面を選ぶ問題は、市の平均正答率より、5.3ポイント高い。 ●反比例についての表を読み取り、表に当てはまる数を求める問題は、市の平均正答率より12.6ポイント低い。	・比例、反比例の学習をするときには、伴って変わることを理解できるように、表と式を関連させ、表、式、グラフを一体としてとらえられるようにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.2	70.3	69.0
	生命・地球	69.1	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	65.9	67.5	66.4
	観察・実験の技能	69.4	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	72.0	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.1ポイント下回っている。 ○ふりこのはたらきについての問題では、全ての市の平均正答率を上回っている。 ●物のとけ方で、食塩を溶かす前と溶かしたあとの全体の重さが変わらないことを選択する問題では、本校の正答率は50.0%で、市の正答率に比べ19.2ポイント低い。 ●水溶液の性質で、リトマス紙につけた時の色の变化から、液性を答える問題では、本校の正答率は56.8%で、市の正答率に比べ14.2ポイント低い。	・実験の目的や方法を確認する時間を十分に設け、目的意識をもって、主体的に実験ができるようにする。 ・理科学用語を正しく習得させるとともに、結果を整理させたり考察を自分の言葉で書かせたりすることで、学習内容の定着を図る。また、既習の内容を振り返る時間を意識的に設け、確実な理解へと導く。
生命・地球	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.3ポイント下回っている。 ○植物の発芽と成長で、インゲンマメの種子が肥料を与えなくても発芽できることを説明する問題では、校内の正答率は88.6%で市の正答率を上回った。 ●生物とかんきょうで、生物と空気との関わりについて答える問題では、本校の正答率は77.3%で市の正答率に比べ9.9ポイント低い。 ●動物のからだのつくりとはたらきで、腎臓の働きについて選択する問題では、本校の正答率は59.1%で、市の正答率に比べ9.6ポイント低い。	・観察や調べ学習が中心の学習では、模型や画像、動画などを活用して学習の対象に対するイメージを十分に持たせ、実感を伴った理解へつながらせるようにする。 ・実験結果から分かったことや、単元のまとめを図や言葉で、表現させる活動を繰り返し行い、学習内容を整理して理解できるようにする。

宇都宮市立岡本小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語に興味を持たせる指導の工夫と言語能力の育成	各学年・各教科で、言葉の特徴やきまり、教科の重要語句に重点を置いた指導を行うとともに、他の単元や教科でも既習の語句を繰り返し取り上げて意識させることで、言語に興味を持たせ、その定着を図る。	国語の言葉の学習に関する問題の平均正答率は58.5%であり市の平均正答率55.7%より2.8ポイント高い。 しかし、教科の重要語句を使用して文章で表現する問題や、長文や複数の資料の中に含まれている重要語句の意味を正しく捉えて答える問題の平均正答率は、市の平均と比べて低いものが多い。
身に付けた言語能力を生かして考えを表現し、伝え合う授業の工夫	学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示を心掛けるとともに、友だちと意見交換をし合う場を意図的に設け、話し合いを通じて、考えを深めたり広めたりする手立ての工夫を行う。	国語の話す・聞くの領域に関する問題の平均正答率は、72.7%と市の平均正答率69.3%より3.4ポイント高い。 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」の質問に関しては、肯定的に回答した児童の割合がほとんどの学年、質問で市の割合を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・国語の「言語についての知識・理解・技能」，「話す・聞く」の領域に関する問題の平均正答率は、年度当初に行われた国の調査に比べて平均正答率が上がっており、言葉についての理解は高まってきていると考えられる。しかし、読解力や書く力に課題が見られることから、言葉の意味と使い方の結びつきを強め、語句を効果的に活用できるようにするため、重要語句を含んだ文章を読んだり、重要語句を使って表現したりする活動を意図的に多く取り入れ、言語能力の育成に努める。
- ・国、県、市の調査において学び合いに関する項目に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均と比べて高い。今後も学習活動における対話を重視し、自らの考えをより具体的・客観的にとらえる機会を多く設け、学力の向上を図りたい。